

1

○オンライン業務は、工程管理システムのレスポンス平均値(X秒)と同等レベルを目標とする。  
また、同様に大量データ処理は、図面系業務と同等レベルを目標とする。

接続形態	処理タイプ ( )内は、想定データ量	ピーク時 レスポンス	平均 レスポンス	最大同時 利用者数
社内	個別系業務(XXKB)	XX秒	XX秒	XX人
	一括系業務(XXKB)	XX秒	XX秒	
	図面系業務転送(XXKB)	XX秒	XX秒	
グループ ネット ワーク	個別系(XXKB)	XX秒	XX秒	XX人
	一括系(XXKB)	XX秒	XX秒	
	図面系業務転送(XXKB)	XX秒	XX秒	
社外	個別系(XXKB)	XX秒	XX秒	XX人
	一括系(XXKB)	XX秒	XX秒	
	図面系業務転送(XXKB)	XX秒	XX秒	

同時利用  
ユーザ数を  
記述する

(参考)前提条件

○1トランザクションの想定データ量:  
・要求: XX~XXKB  
・応答: XX~XXKB  
○業務量想定  
・平成XX年度実績のXX倍と想定

将来想定値を  
記述する。

	平成XX年(想定)	平成XX年(実績)	単位
総申込/受付件数 (内、新設系)	XXX,XXX (XXX,XXX)	XXX,XXX (XXX,XXX)	件
総異動設備数	XXX,XXX	XXX,XXX	基
業務数(新設系)	—	XX	業務
業務数(改修系)	—	XX	業務
年間総業務数	X,XXX,XXX	X,XXX,XXX	業務

○写真1枚のデータ量: XXKB(XX万画素、24bitカラーJPEG画像)  
○データ量想定

業務		平成XX年想定 データ量(枚)
更新系	貸出申込による登録	XX,XXX
	巡視による更新	X,XXX,XXX
参照系	貸出工程管理からのオンライン検索	X,XXX,XXX
	巡視前のダウンロード	X,XXX,XXX

○利用者数(想定)  
社内 XXXX台  
関係会社 XXXX台  
社外 XXXX台

基本検討段階では、類似システムとの比較、利用ニーズ、業務上の制約などをもとに、性能目標値を設定する。  
基本設計段階にて性能目標を実現するためのインフラ設計を行うが、そのために必要な前提条件を記述しておく。